

(5) 総合評価

本市のみどりは、石川岳や下原地区の斜面緑地帯、勝連半島南岸の急傾斜地、平安座集落背後や宮城島・津堅島周囲の斜面緑地といった島しょ地域等の斜面緑地を骨格として、天願川水系や石川川水系等の河川が水の骨格を形成している。

郊外、特に勝連地区・与那城地区には農地が広がり、のどかな田園風景を形成している。

本市の海岸域は人工的な海岸もあるが貴重な自然海岸も残されており、海岸の樹林地は防風・防潮林等の役割を果たしている。自然海浜・ビーチも数ヶ所点在しているが、ごみ・不法投棄等の問題がある。

世界遺産である勝連城跡をはじめ、市内には数多くの安慶名城跡、伊波城跡といったグスク・御嶽・井泉・拝所等の史跡がみどりと一体となって点在しており、地域のシンボルとなっているが、周辺環境を含めて十分な整備がなされていない箇所もある。また、本市の代表的な農村伝統文化の場として闘牛場が点在している。

道路には街路樹等の植栽帯が整備され、まちの表情を豊かにしている。しかしながら、区画整理が行われた具志川地区の市街地では、街路樹等の整備も見られるが、自然環境が少なく潤いに乏しい状況である。今後計画的に市街化を図っていく地域においては、周辺環境と調和の取れた緑化推進が望まれる。一方で、島しょ地域等の集落内ではフクギ屋敷林等の風土を感じさせるみどりも見られる。

市内には、市民の憩いやレクリエーションの場として多くの都市公園や広場が整備されているが、身近な公園が不足している地域も見られる。

市役所庁舎等の公共施設、字前原等の地域に集積する大規模商業施設やゴルフ場等の民間施設においては、市民が潤いを感じる資源として施設の緑地及び緑化空間がある。

本市に現存する豊かなみどりを保全するとともに、施設緑化空間等の新たなみどりを創出し、それらを適正に維持管理して活用することで、総合計画に掲げるうるま市の将来像『人と歴史が奏でる自然豊かなやすらぎと健康のまち』の実現につながるものと考えられる。

うるま市には多彩で魅力的なみどりが数多く存在する。みどりの各拠点を線でつなぎ、面的な広がりを持たせて有機的に結び付けることで、うるま市らしさが感じられるみどりのまちづくりを進めることが期待できる。

表 総合評価表

評価対象	環境保全	レクリエーション	防災	景観
石川岳				
下原地区の斜面緑地帯				
勝連半島南岸の斜地緑地				
島しょ地域の樹林地				
ダム				
農地				
天願川水系、石川川水系等の河川				
海岸のみどり				
自然海浜・ビーチ				
勝連城跡				
安慶名城跡				
伊波城跡				
グスク・御嶽・井泉・拝所等の史跡				
闘牛場				
集落背後林・屋敷林				
道路の植栽帯				
広域的な公園・緑地				
身近な公園・広場				
ゴルフ場				
ビオスの丘				
官公庁施設等の公共施設緑化空間				
大規模商業施設等の民間施設緑化空間				

(6) みどりに関する課題

1) 樹林地

樹林地は、生物の生息地・生育地、水源涵養等の多様な役割を担っている。今後も豊かな自然環境の保全に努めるとともに、防風・防潮林の植栽、森林を利用したレクリエーションの場の創出を図り、積極的な活用を進めることが必要である。

また、急傾斜地においては、地すべり等の防災対策を促進することが必要である。

樹林地に囲まれているダムは、周辺の緑地と水面によって形成される良好な環境の保全を図る必要がある。

2) 農地

農地においては、優良農地の保全とともに遊休農地の利活用を促進し、美しい自然環境と調和した田園風景の維持・創出に努めることが望まれる。

3) 河川・沼地

天願川水系や石川川水系等の河川は、生物の生息地・生育地、レクリエーションの場等の多様な役割を担っており、今後も水質浄化及び環境保全を進める必要がある。また、安全性の確保や親水性の向上に配慮した河川整備を進め、積極的な活用を図ることが望まれる。

これらの河川環境づくりは、市民との協働による地域ぐるみの取り組みを促進することが求められる。

勝連城跡の北側にある沼地は、水鳥等の貴重な飛来地となっており、今後も環境保全を図る必要がある。

4) 海岸・海浜

海岸沿いのみどりは、防風・防潮林のほか、魅力的な景観資源等の役割を果たしており、自然海浜・ビーチは海浜レクリエーションの場等の役割を担っている。今後も市民参加による海岸・海浜の環境美化を促進し、海浜レクリエーションや親水空間等の潤いある水辺環境づくりに努めることが求められる。さらに、これら海岸・海浜の景観・生態系・環境の保全を図り、地域資源としての活用の充実が望まれる。

5) 史跡

本市は、世界遺産である勝連城跡をはじめ、グスク・御嶽・井泉・拝所等の歴史文化資源を多く有している。これらの資源と一体となった緑地空間の保全と、周辺を含めた環境整備を進め、積極的な活用を図ることが求められる。

6) 闘牛場

集落にある闘牛場は、本市の代表的な農村伝統文化の場であり、オープンスペースと一体となった緑地空間として保全・活用し、ネットワーク化を図ることが求められる。

7) 道路の植栽帯

街路樹等の道路の植栽帯は、緑陰創出、季節感の演出、道路沿いの環境保全、延焼防止帯等の多様な役割を担っている。安全で快適な道路環境づくりのため、潤いのある植栽帯の創出と適切な維持管理に努める必要がある。

幅員が狭く植栽帯の確保が困難な道路については、道路特性に応じた緑化を工夫することが求められる。

8) 都市公園

公園・緑地の配置・整備の状況は地域によってばらつきがあり、地域の実情を踏まえた市全体の方針を定め、それに基づき、市民生活に身近な公園、自然や歴史文化資源を活かした公園等の計画的な整備を推進し、防災機能の向上や自然環境及び歴史文化資源との調和を図ることが求められる。

併せて、適切な公園の維持管理により、衛生面・安全面の向上に努める必要がある。

また、市内には、都市公園以外の広場や農村公園等あり、これらと都市公園・緑地との連携を含めたネットワーク化を図る必要がある。

9) 公共施設及び民間施設の緑化空間

公共施設や民間施設の緑化空間は、まちの表情を豊かにし、市民が身近に潤いを感じることが出来る。個々の施設で緑化活動に取り組んでいるものの、緑化状況にばらつきがあり、うるま市としての統一感にも欠ける。

今後は、公共施設が積極的に緑化を図るとともに、民間施設の緑化を促進できる仕組みづくりを検討することが望まれる。

10) 住宅地内のみどり

字天願、石川1・2丁目、石川伊波、与那城屋慶名及び伊計島や浜比嘉島といった島しょ地域等の集落内にはフクギ屋敷林や集落背後林等が残存しており、集落景観の形成や防風・防潮林として役目を果たしている。しかしながら、それらは一帯ではなく点在して残っている状態であり、今後も都市化等により減少することが考えられることから、保全の仕組みづくりを検討する必要がある。また、各集落の拝所や広場、学校等には地域の顔となるシンボルツリーが生育している。

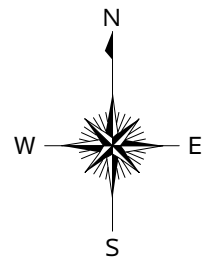
勝連平敷屋、与那城屋慶名等の密集市街地においては、都市基盤の改善とともに、防災機能を有する緑地空間の整備が求められる。

11) みどりづくりへの取り組み

みどりづくりへの取り組みには、市民の高い意識と積極的な活動が必要となる。そのため、市民意識高揚や環境教育に寄与するイベントや情報発信、市民緑化活動を支援する仕組みづくり等を検討する必要がある。

また、うるま市民としての誇りを持ち、市民全体が一体となれるようなみどりづくりへの取り組みを検討することが望まれる。

みどりの課題図



凡	例	主な課題
	山林・平地林	豊かな自然環境の保全や防風・防潮林の植栽、森林を利用したレクリエーションの場の創出を図り、積極的な活用を進めることが必要
	土砂災害警戒箇所	地すべり防止区域等の土砂災害警戒箇所の防災対策の促進が必要
	ダム	ダム周辺の緑地と水面によって形成される良好な環境の保全が必要
	水面	河川や沼地の水質浄化及び環境保全、安全性の確保や親水性の向上に配慮した整備が望まれる
	ビーチ	海岸環境の景観・生態系・環境の保全を図り、地域資源としての活用の充実に望まれる
	海岸保全区域	
	公園	公園の計画的な整備、適切な維持管理
	公園誘致圏	公園や広場等のネットワーク化が必要
	闘牛場	オープンスペースと一体となった緑地空間として保全・活用・ネットワーク化が望まれる
	農地	自然環境と調和した田園風景の維持・創出が望まれる
	史跡	歴史文化資源の緑地空間の保全、周辺を含めた環境整備・活用が望まれる
	沖縄自動車道	
	幹線道路	安全で快適な道路環境づくりのための潤いある植栽帯の創出と適切な維持管理が必要
	街路樹のある区間	
	学校	
	官公庁施設	
	公民館	
	公営住宅	公共施設の積極的な緑化と民間施設の緑化を促進できる仕組みづくりの検討が望まれる
	大規模商業施設	
	その他の民間施設	
	市街地	減少するみどりの保全の仕組みづくりの検討が必要
	集落	

「防災系統のみどりの評価図」の「地すべり防止区域」「地すべり危険箇所」「急傾斜地崩壊危険区域」「急傾斜危険箇所」をまとめて「土砂災害警戒箇所」と表示する

公園誘致圏の誘致距離は半径：250m、500m、1km

